

平成20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

◎取組分野：【交流】

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1. 都道府県、市町村 | 石川県能登町 ^{のどちょう} |
| 2. 団体名 | 春蘭の里実行委員会 |
| 3. 取組みの名称 | 学生達が夢見る黒い瓦と白壁でのふるさとづくり |
| 4. 取組概要等 | |

◇概要

集落では、「あと10年経てば農家が半減するのではないか」という深刻な過疎化問題を抱えていた。そのような中、山菜やキノコ採りが楽しめる集落の真ん中には川が流れている、といったそれまで当たり前のように共生し、恩恵を受けてきた自然環境の価値に気がついた。そこで、「グリーンストック 水と緑を後生に引き継ごう」をテーマに、恵まれた自然を最大限に活用した村づくり・村おこし活動を目的として、平成8年8月、異業種の面々7名で「春蘭の里実行委員会」を結成し、「春蘭の里」の商標取得、春蘭の栽培圃場、ハウスを整備した。

平成9年には民宿「春蘭の宿」を開設し、ロジ1棟が完成、その後、平成14年には菓子製造業、農産物加工業の許可を取得したほか、第2ロジが完成した。平成15年の石川グリーン・ツーリズム促進特区認定（農家民宿4軒、市民農園3戸）から、農家民宿は徐々に増え、平成20年には30軒になる予定である。その間の平成16年に、廃校となった宮地小学校は宮地交流宿泊施設「こぼし」として完成し、さらにこの年には地域作り全国大会の穴水会場受入れや、小型風力発電の設置のほか、親水公園も完成した。

黒い瓦に白い壁の奥能登独特の原風景の中にあって、過疎にもびくともしない春蘭の里は、平成20年には3,000人の来客を見込んでいる。特に、平成19年には高校生の修学旅行のほか、半島振興フォーラム全国大会の会場にもなり、2,000人以上の来客があった。

平成20年、子ども農山漁村交流プロジェクトのモデル地区に選ばれ、修学旅行の問い合わせが増えているほか、農家民宿も15軒増え30軒となる予定である。30軒の農家民宿群で200人の受け入れ体制を整え、グリーン・ツーリズム型観光地域として農村の再生を図っている。

◇活動の規模

項目	H15	H16	H17	H18	H19
売り上げ	1,175	1,057	676	904	1,314
解説	単位：万円 民宿、米、酒、山菜、きのこ、会員制度、花など				
来客数	800	652	752	1,208	2,027
解説	単位：人				
イベント回数	4	4	7	7	7
解説	単位：回 春蘭の花と新酒の宴、自然学校、桜の宴、みのむし祭りほか				
イベント参加者	353	366	200	462	436
解説	単位：人				

◇活用している地域資源

- ・1年を通して栽培されている春蘭、山野草、薬草、きのこ、山菜
- ・ゴリ、ヤマメなどの川魚の養殖

- ・ 田畑での農業体験や自然学校での里山保全
- ・ 地元のものを活かした果実酒や竹細工
- ・ 地域に伝わる民話・神話・歴史の語り部
- ・ 黒い瓦と白い壁に、土蔵・本宅・馬屋の3つからなる農家の家屋

◇地域活性化のポイント

若者の流出や少子高齢化で人口の減少が止まらない奥能登地域において、住民主導型の春蘭の里には、石川県内外から多数の人が修学旅行や各種大会、大学・専門学校のゼミ等で訪れている。小さな集落の有志達の熱意の広がりが、地域活性化のカギを握っていると言える。

◇事業の今後の展開方向

平成19年には農家民宿が15軒になったほか、廃校となった宮地小学校が交流宿泊施設「こぶし」となったことや、修学旅行や各種大会などの受け入れによって、春蘭の里への来客数が2,000人を超えるまでになった。農家民宿がさらに増える平成20年には、3,000人もの来客が見込まれる。

今後は、修学旅行や子ども農山漁村交流プロジェクト等でのさらなる受け入れを目標とし、農家民宿を30軒として、1学年200人規模の受け入れ体制を作っていく。

